

国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）

平成 30 年度 事業実施結果

<方 針>

平成 30 年度は、一昨年度作成したロードマップに基づき生物多様性の主流化に向けた取組を推進するとともに、2020 年に向けて 10 年間の成果について整理を行う。

<重点事業>

○ロードマップに基づいた取組推進

6 月に開催した第 8 回委員会で、昨年度の取組状況のフォローアップ結果を報告した。「自己評価」については、「A」評価（予定した取組を概ね実施できた）が 67、「C」評価（予定した取組を実施できず）が 2。

・ 100 万人の「MY 行動宣言」

【実績】

平成 29 年度末時点 : 約 87,000 宣言
平成 30 年度末時点 : 約 220,000 宣言

【当初計画】

これまでの取組に加え、一定規模の宣言数を集めた主体の表彰、既存のイベント等との連携等を推進し、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

【実施内容】

- ・ UNDB-J や環境省の後援名義使用を申請した団体や、個別に団体に MY 行動宣言の協力を依頼。
- ・ 政府広報ラジオ番組「秋元才加と JOY の Weekly Japan!!」において MY 行動宣言の呼びかけを実施。
- ・ 地球いきもの応援団が環境省公式 Twitter にて MY 行動宣言を実施。
- ・ UNDB-J ウェブサイトの MY 行動宣言のページをスマートフォン対応化するとともに、宣言者の所属団体を入力可能に改築。（年度内実施予定）
- ・ 関東学生潜水連盟と連携しダイバー版を作成。国際サンゴ礁年 2018 の各種イベントにおいて学生による宣言の呼びかけを実施。
- ・ 多摩動物公園における企画展と連携し、ボールを投票する形式で宣言を呼びかけ、18,528 宣言を収集。
- ・ 那須どうぶつ王国において、5 アクションと絡めたクイズラリーを継続的に実施し、2 年間で 56,200 宣言を収集。

・「生物多様性の本箱」300館プロジェクト

【実績】

平成29年度末時点 : 145館・施設

平成30年度末時点 : 193館・施設

【当初計画】

推薦図書「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を2020年までに300館達成することを目指して、企業・自治体ネットワーク構成自治体への呼びかけを実施。

【実施内容】

- ・岐阜県が「国際生物多様性の日」を中心に県内37館・施設を主導し、企画展を実施。
- ・「生物多様性の本箱寄贈プロジェクト」で12都道府県12館・施設に寄贈を実施。

・「にじゅうまるプロジェクト」2020宣言

【実績】

平成29年度末時点 : 747事業

平成30年度末時点 : 902事業

【当初計画】

にじゅうまるプロジェクト実施主体の国際自然保護連合日本委員会と連携して、2020宣言を目指して、様々な場を通じて取組を周知。

・グリーンウェイブ2018の取組強化

【実績】

	参加団体数	植樹本数
平成29年	2472	約29万
平成30年	2891	約31万

※係数は平成23年（2011年）からの累計。

【当初計画】

これまでの取組に加え、関係機関と緊密に連携してオフィシャル・パートナーの任命等を実施し、参加団体の増加とパブリシティの促進を図る。

【実施内容】

- ・ミス日本みどりの女神を「グリーンウェイブ大使」として任命し、グリーンウェイブへの参加呼びかけの強化を実施。また、箱根町にて『緑の祭典“かながわ未来の森づくり”2018 in はこね』として記念植樹祭を実施。
- ・地方自治体や企業・団体等が主体となった「グリーンウェイブ」の呼びかけを強化するため、①登録促進、②広報、③寄付・協賛等を通して「グリーンウェイブ」の取組の活性化に寄与する地方自治体や企業・団体等を、「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命。

<個別事業>

★	新規事業・取組
☆	Iki・Tomo 推進事業
【 】	〃 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

☆ (1) MY 行動宣言 5つのアクション・100万人のMY 行動宣言

※ 重点事業の報告のとおり。

☆ (2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

100件の応募から、審査を経て5つの部門賞の他、特別賞を決定。12月の表彰式において5つの部門賞の中から大賞を環境大臣賞及び農林水産大臣賞として表彰。

環境大臣賞：おかえりやささいプロジェクト

「地域循環型野菜を地域共通ブランドに！」

農林水産大臣賞：くまもと☆農家ハンター

「『自分たちの地域と畑は自分たちで守る』

くまもと☆農家ハンターの野生鳥獣対策」

2. セクター間の情報交換・連携促進

(1) 国連生物多様性の10年日本委員会 地域フォーラム

各地域レベルでも UNDB-J 各委員、認定連携事業の認定団体、各地域で活動する様々な団体等の連携による取組を推進するとともに、これまでの活動を振り返り、議論・共有するために、事例紹介やワークショップ等を行うフォーラムを3月18日（月）に東京フォーラムとして実施。

(2) 生物多様性全国ミーティング

- ・ 「第8回生物多様性全国ミーティング」を鹿児島市にて開催。約350人が参加。
- ・ パネルディスカッションでは平成30年が明治150周年であったことを踏まえ、「歴史・文化を支える生物多様性」をテーマに、歴史・文化が生物多様性と密接に関係していることを認識し、これらを次世代に継承していく行動につなげることを目的として、鹿児島大学の星野教授のコーディネートのもと、議論を行った。

3. 主流化に向けた活動プログラム

☆ (1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

<「生物多様性の本箱」300館プロジェクト>

※ 重点事業の報告のとおり。

<本箱寄贈プロジェクト>【日本自然保護協会等】

経団連自然保護協議会ほか、企業9社の指定寄付により、12施設(12都府県)に「生物多様性の本箱」を寄贈。

☆ (2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

UNDB-J が推奨する連携事業を10月（第13弾）に9事業、3月（第14弾）に10事業認定。

☆ (3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】

※ 重点事業の報告のとおり。

(4) 生物多様性イベント支援ツール

自治体、事業者、NPO 等からの依頼に応じて、広報ツールの提供を実施。

平成 29 年度末時点 : 108 件

平成 30 年度末時点 : 107 件

☆ (5) ユース育成国際会議派遣【国際自然保護連合日本委員会】

生物多様性条約関連の国際会議に 2 名のユースを派遣。国際的なユースグループ GYBN への参画、ポスト愛知目標のプロセス案作成コンタクトグループやサイドイベントへの参加、UNDB-DAY での企画・発表。(SBSTTA-22・COP14)

4. 情報発信

(1) 平成 30 年 生物多様性関連情報 一斉報道発表

各セクター・委員において、5 月 22 日の「国際生物多様性の日」周辺でのイベント行事開催の呼びかけ、および年内に開催するイベント・行事とあわせて取りまとめた報道発表を実施。

※事前の調整不足により実施せず。次年度に向けて調整を実施。

(2) 生物多様性マガジン「Iki・Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用少冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を 2 回発行。

Vol. 16 身近な自然を観察しよう

Vol. 17 オーガニックでいこう

☆ (3) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

- ・ 日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイト運営。
- ・ 連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体について取組や紹介文を掲載。

(4) facebook「Iki-Tomo パートナーズ」

- ・ Iki-Tomo パートナーズへの新たな参画を関係者へ呼びかけ。
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信。
- ・ 環境省の報道発表と連動し、イベント開催情報等を発信。

(5) UNDB-J ウェブサイト

全国ミーティング、地域フォーラム等のイベント開催情報や、MY 行動宣言や生物多様性の本箱、認定連携事業の実績等、UNDB-J の活動状況等を発信。

(6) イベント

みどりの感謝祭、グリーンチャレンジデー等へ UNDB-J の取組を発信する展示を出展。

<平成 30 年度実績>

日付	イベント名	主催者
4 月 29 日	2018 新宿御苑みどりフェスタ	2018 新宿御苑みどりフェスタ実行委員会

5月12日 13日	第28回みどりの感謝祭	みどりの感謝祭運営委員会
6月2日 3日	エコライフ・フェア 2018	環境省
8月11日	第3回「山の日」記念全国大会 in 鳥取	第3回「山の日」記念全国大会 in 鳥取実行委員会
9月29日 9月30日	GTF グリーンチャレンジデー2018 in 新宿御苑	GTF 実行委員会
10月8日	UNDB-J 生物多様性全国ミーティング in 鹿児島	UNDB-J、環境省、鹿児島市
11月26日 ～30日	防衛省環境週間	防衛省
2月7日 ～11日	第18回さがみ自然フォーラム	厚木市・NPO 神奈川自然保護協会
2月16日	とり eco 環境フェスタ	鳥取県
3月30日 3月31日	SAToyAMA&SAToUMI へ行こう 2019	株式会社アップフロントグループ

(7) COP14におけるサイドイベント

エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催された COP14 において、生物多様性条約事務局とともに、サイドイベントとして「UNDB-DAY」を11月19日に開催し、UNDB-Jをはじめとする日本の取組を国際社会に発信。国内外の行政、経済界 NGO、ユース等幅広い分野のセクター（60名程度）が出席。

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

地球いきもの応援団の全国ミーティング等での出演を通じた普及啓発を実施。

<平成30年度実績>

日付	出演者(敬称略)	イベント名	主催者
6月2日	さかなクン	エコライフ・フェア 2018	環境省
8月1日	さかなクン	こども霞が関見学デー	環境省
8月18日	森 朗	つなぐ生物多様性 高校生チャレンジカップ	愛媛県
10月8日	高木 美保	UNDB-J 生物多様性全国ミーティング in 鹿児島	UNDB-J、環境省、鹿児島市
10月20日	小菅 正夫	e-kamon まるごと環境フェア	美濃加茂市
12月8日	さかなクン	エコプロ 2018 SDGs ステージ	UNDB-J
3月10日	今森 光彦	里山里海湖フォーラム 2019	福井県

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ、登録。
がうがうくん (アゼリーグループ)
プチクマ (株式会社ブルボン)

ゆめらいおん (TOKYO MX)

西郷どん (鹿児島県 鹿児島市)

パールちゃん (花園ジョイフル子ども会)

- ・ 全国ミーティング、地域フォーラム等の機会を活用し、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが、今後協力して普及啓発に取り組むことを宣言する「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施。

<平成 30 年度実績>

日付	キャラクター	イベント名	主催者
9月29日	がうがうくん プチクマ ゆめらいおん	GTF グリーンチャレンジデー2018 in 新宿御苑	GTF 実行委員会
10月8日	西郷どん (鹿児島市)	UNDB-J 生物多様性全国ミーティング in 鹿児島	UNDB-J、環境省、鹿児島市

6. 委員会等の運営

- ・ 委員会 (6月)、幹事会 (9月、3月)、運営部会 (6月、8月、3月) を開催。
- ・ 寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会 (5月、3月) と連携。
- ・ 2020 年に向けた UNDB-J や構成団体の取組をまとめたロードマップに基づいた取組を推進。

【参考】

(1) UNDB-J 推進事業 (愛称: Iki・Tomo 推進事業) について

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省 (UNDB-J 全体の事務局) と調整のうえ、UNDB-J 推進事業 (愛称: Iki・Tomo 推進事業) に位置づけ、当該団体内に事務局 (愛称: Iki・Tomo 推進事務局) を設置。
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施。

(2) 寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施。
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛 (本の提供) の呼びかけや、企業等への寄付 (寄贈式の実施費用の負担等) の呼びかけについても実施。

UNDB-J ロードマップの概要

1. ロードマップ作成の経緯

- ・平成 27 年に（2015 年）11 月に「国連生物多様性の 10 年」の折り返し年を迎えるにあたり、UNDB-J のこれまでの成果と課題を中間評価としてとりまとめ。

<UNDB-J 中間評価の概要>

- ・これまで各構成団体がそれぞれの立場で生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進してきており、着実な成果を上げてきた。
- ・一方で、「生物多様性」の言葉の認知度が低下しており、現状の取組を続けるだけでは愛知目標 1 に掲げられた、2020 年までに「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」を我が国で達成することは困難。
- ・今後、セクター間の連携の強化、構成団体以外とも連携した取組の展開といった方向性のもと、ロードマップを策定し取組を進めていく。

- ・中間評価結果を踏まえて、主流化の取組をさらに加速するために、UNDB-J 及び委員の 2020 年までの目標と具体的な取組をまとめたロードマップを平成 28 年 10 月に作成。

2. ロードマップの構成

- ・本文 [P. 1~P. 10]

はじめに (UNDB-J のこれまでの取組の経緯、社会的背景と UNDB-J の役割)

I. 目指すべき社会像

II. 目指すべき社会像に向けたステップ

III. 目指すべき社会像に向けた取組の方向性

IV. 目指すべき社会像に向けた具体的な取組

- ・別紙 1 : UNDB-J の取組 [P. 13~P. 14]
- ・別紙 2 : 構成団体による取組 [P. 15~P. 36]
- ・別紙 3 : 構成団体の連携による取組 [P. 37~P. 57]
(別紙 2 の取組から構成団体内外の連携した取組を抽出したもの)
- ・参考 1 : UNDB-J 及び構成団体の取組 (別紙 1 及び別紙 2) のうち、指標を設定している取組の最新値及び目標を整理した表 [P. 59~P. 64]
- ・参考 2 : UNDB-J 及び構成団体の取組 (別紙 1 及び別紙 2) の個票
[P. 65~P. 142]

UNDB-J ロードマップのフォローアップの結果(概要)

1. フォローアップ作業

- ・各団体に個別の取組に関する、工程表（別紙 1 及び別紙 2）と取組の個票（参考 2）をリバイスして頂き、事務局でフォローアップ結果をとりまとめ。
- ・具体的なリバイス内容は、平成 30 年度の取組結果と、それを踏まえた平成 31 年以降の取組の見直し。
- ・取組の評価については、昨年度に引き続き、取組の「自己評価」欄に、「A：予定した取組を概ね実施できた」又は「C：予定した取組を実施できず」の標語、併せて簡単な自己評価コメントの記載。

2. フォローアップ結果概要

○指標については、新たに 2 指標（1 団体）が設定し、現時点で 46 指標（20 団体）が設定

- ・世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全（取組 31-8）

取組団体：環境省

定 義：世界自然遺産地域の順応的保全管理の実施地域

- ・自然公園等利用ふれあい推進事業（取組 31-11）

取組団体：環境省

定 義：参加者数

○「自己評価」については、「A」評価が 66、「C」評価が 4
ほとんどの団体の自己評価が「A」